

と思うのですよ。

ことしは、また昨年よりも数多く経営者が増えて、何人か増えていますものね。増えているし、放養尾数も数を持っていますよ。だから、今のことしの本当に秋口が、一番水温が二十二、三度ぐらいになってきたときが一番安全パイでえさをやれるものですから、一生懸命やろうとするわけですけど、そうなればどうしてもえさの量が加算しますから、早く行った船とおくれた船というのがかなり時間差が出ると思いますので、市長、そのところでぜひ県との交渉をして、車ごと、それこそぱっとつけて、本当10分でも20分でも早く漁場に走られるような態勢を整える浮き桟橋をぜひお願いします。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 対馬のマグロが、対馬の水産物が市場で全量新鮮なままはけるように、しっかりこちらも取り組んでいきたいと思います。わかりました。

○議長（作元 義文君） 18番、大部初幸君。

○議員（18番 大部 初幸君） ぜひ、市長、これが現実化が一日も早くできるようにお願いしまして、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（作元 義文君） これで大部初幸君の質問は終わりました。

.....

○議長（作元 義文君） 暫時休憩します。2時15分から再開します。

午後2時05分休憩

.....

午後2時14分再開

○議長（作元 義文君） 再開します。

1番、脇本啓喜君。

○議員（1番 脇本 啓喜君） こんにちは。1番議員、会派協働の脇本でございます。

さて、当選1年目最後の定例議会に当たって、昨年の市議選中、市民の皆様あてにお送りした立候補のごあいさつはがきに掲げた4項目について、先におさらいしてみました。

1番目の対馬の均衡ある発展については、交通体系の整備改編が重要との観点から、9月と12月の一般質問で、JR高速船の比田勝港寄航による経済活性化案の提案をしました。昨年末には、地元有志による「比田勝港にJR九州のジェットfoil就航を実現する会」が設立され、市は内閣府あてに国際線国内線混乗特区の申請の相談をしていただきました。しかし、関係法制度の壁は厚く、よい回答が得られませんでした。施政方針にもあったように、官民協働でこれからも粘り強い交渉の継続を期待いたします。

2番目の核関連施設誘致に断固反対については、9月の一般質問で市長より、高レベル放射性

廃棄物最終処分場の誘致に関して、従来どおり否定的見解の回答をいただきました。施政方針に示されたように、この問題に限らず、環境王国の称号にふさわしい姿勢を今後とも期待いたします。

3番目の対馬の特性を活かす産業育成と雇用確保については、水産業の再興、顧客ニーズに対応した観光事業の展開を具体策として提示していました。今回は、残されたこの項目について質問します。

4番目の住民自治理念の醸成・普及については、その促進策として、9月の一般質問で、生活基盤を中心に、本所から地域活性化センターへの権限移譲と職員の出身母体帰庁を提案しました。上対馬地域では、西泊地区等一部で地域マネージャー制度が動き出した地区もありますが、まだ本格稼働したとまでは感じていません。制度趣旨を理解し、意欲あるマネージャーが近隣に多く居住する地区の動き出しが早くなると思いますので、上記提案の早期取り組みを期待いたします。

さて、本日の質問の内容です。

1番目に、水産業振興の取り組みについて、1、海洋保護区設定に向けた取り組みについて。

海洋保護区設定をめぐる島内の最近の動きとしては、1月23日に上対馬町漁業協同組合漁民代表が、赤松農林水産大臣あてに大中型まき網及び沖合底びき網漁業操業区域許可の見直しについての要望書を、来島中の山田農林水産副大臣に直接提出しました。また、2月8日に来島した現中村長崎県知事と対馬市議会議員有志の会が、海洋基本法に基づく対馬周辺海域における海洋保護区域の設定について、政策協定を締結しています。

国際的な動きとして、本年10月には名古屋市で生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が開かれ、海洋生態系保全に向け新たな枠組みが決定される予定となっています。

対馬市も、清野聡子東京大学助教の指導のもと、このような対馬の海と漁業を未来につなぐ海洋保護区の可能性の検討というプロジェクトを進行中のようです。大型まき網や底びき網漁業の乱獲によって、島内の漁業者は窮地に立たされて久しくなります。市として、政府への海洋保護区設定に向けた具体的働きかけや、その進捗状況等をお聞かせください。

次に、2番目、いそ焼け対策の取り組みについて。

本年1月23日に、対馬市交流センターで開催されたシンポジウム「森里海連環学 対馬から林業再生を考える」は大盛況でした。特に、京都大学社会連携教授C. W. ニコル氏のユーモアあふれる基調講演は興味深いものでした。昨年末にニコル氏と同じ肩書きを持つ畠山重篤氏の「鉄が地球温暖化を防ぐ」という本を地域の方に勧められて拝読していたので、講演内容がより素直に理解できました。本の帯には、「海に鉄をまく！？いそ焼けで荒れ果てた海が鉄の力で生命力あふれる海の森に・・・」と記載されています。

著書の中で、畠山教授の理論を低コストで実践している宇部市の発明家杉本幹生氏が紹介され

ています。これを対馬でも実践できないかと思い、早速杉本氏にアポイントをとり、1月末に清風会、公明、協働の3党派議員7名で政務調査に行っていました。杉本氏の取り組みは、先般、小学館の「小学4年生」3月号に、「海のサプリメント鉄炭団子で海がきれいになった」と題して、わかりやすく掲載されています。

島内でも、魚介類のえさになったり、隠れ場所、産卵場所となる海草が減少し、海の砂漠化が進んでいます。栄養素が豊富にあるだけでは、海草は育ちません。海草が減少した主な原因として、杉本氏は鉄イオン不足に注目しました。従来は、川などを通して地中に含まれる鉄イオンが海に運ばれていた際、広葉樹林でつくられた腐葉土に含まれるフルボ酸と結合し、植物プランクトンに吸収されやすいフルボ酸鉄の形になって海に供給され、海草が育ちやすい環境が保たれていました。

しかし、森林は腐葉土をつくらない針葉樹の植林が進んだ上に、道路の舗装や護岸工事で鉄イオンがせきとめられ、鉄イオン不足となった海には海草が育たなくなってしまったというのです。杉本氏は、30年の年月と私財を投じて、鉄イオンを低コストで発生させる仕組みを2つ考案されています。

1つ目は、スチール缶と竹炭を結合させて、乾電池の原理を応用したものです。この方式は、畠山氏の著書の島内の読者が既に実践し始めた例もあり、効果が早速上がっているということです。空き缶を島外に輸送する費用を転用して、間伐材を利用した炭と結合させてつくることができないでしょうか。

2つ目は、使い捨てカイロを利用した鉄炭だんごです。その実物がこれです。この方式は、数年来、毎年、赤潮に悩まされていた愛媛県宇和島地区でまいたところ、次の年から赤潮が発生しなくなったという効果が報告されています。総合的学習の時間を使って子供たちにつくってもらい、漂着ごみ回収のボランティアに参加した後、鉄炭だんごをまいてもらえば、素晴らしい環境教育の教材にもなると思います。

対馬の漁業者の多くは、農林業者でもあります。自己資金で除草したり肥料をやることは、漁業では漂着ごみ回収や鉄炭だんごをまくことに当たると考えれば、漁業交付金を漂着ごみ回収の日当ではなく、この事業の費用に振りかえることへの抵抗は薄れるのではないのでしょうか。

ところで、2009年の対馬周辺の高齢化事故が過去5年間で最多の34隻となり、前年から倍増していると、対馬海上保安部の報告が2月26日の長崎新聞にありました。不漁続きで、時化に無理をして出漁せざるを得なくなったことや、あるいは9月の大部議員の一般質問の指摘にもあったように、漁師の高齢化も事故多発の原因の1つではないのでしょうか。

対馬海上保安部交通課に分析をお願いしました。その結果、3マイル以遠での事故が6隻、事故者の平均年齢が63.4歳、60歳以上の事故者が10人と初めて2けたになるなど、過去最

高を更新しています。先ほどの懸念が、的外れではないということがうかがえると思います。高齢の漁師が沖合まで出漁せずとも糧を得られるほど、沿岸に魚介類が戻ってくるような施策を講じる必要が高まっていると思います。

御存じのとおり、シェルナースや鉄鋼スラグによる藻場造成事業も全国各地で実施されていますが、それぞれ効果に疑問を呈されたり、かえって有害であるという研究結果も多く発表されています。これらの漁礁から溶出する有害物質は、食物連鎖の頂点に位置する人間に長年にわたって生物濃縮により蓄積します。現段階では、環境や生物にとって安全が保障されているわけではありません。また、コスト面から、身の丈に合った事業なのかとの検討も必要です。環境王国を冠する対馬においては、まず特許所有者の杉本氏に来島していただき講演してもらい、安心安全で初期投資が低コストな上にメンテナンスフリーという、この杉本方式の実施を検討してみてもどうでしょうか。

次に、大きな2番目、観光事業の振興の取り組みについて、観光客誘致に向けた航路活性化の取り組みについては、先ほどの質問とも関連しますし、産業建設委員会や国県道整備促進委員会でまた報告もあるようですので、割愛させていただきます。

2番目の対馬PRに向けたメディア戦略の取り組みについて、対馬市福岡事務所のメディア戦略について。

本来であれば、特産品や観光客増加に直結する観光商品、観光ルート等を福岡事務所はメディアにPRすべきだと思います。しかし、売り込むものの選定や観光商品の確立が図られていないのが、対馬の現状だと認識しています。施政方針で、推奨商品の基準の確立や観光ガイド養成を継続的に行うとのことから、市長の認識も同様であるとうかがえます。市長がおっしゃるように、まずは対馬という地名の認知度を上げることに、メディア戦略の主眼を置くべきだと思います。

現在、KBCラジオのスポンサーになり、2月から3月まで毎週水曜日に8回、対馬のCMを流しているようです。島民はもちろん、島外の対馬人、さらには対馬人以外の方からの反響も好評のようです。また、CM以外でも、「とんちゃん部隊」やアナゴ料理など、メディアへの露出も多くなってきています。このことから、メディアとの人脈も構築されつつあると思います。せっかく培った人脈を途切れさせては、投資効果も薄れてしまいます。ラジオCMであれば、数十万円程度の経費でしょう。来年度予算には計上されていないようですが、投資効果を上げるためにも継続を検討されてはいかがでしょうか、市長の見解をお尋ねします。

2番目、新たなメディア戦略の展開について。

1月末の政務調査では、捕獲イノシシの解体・加工施設「やまくじら」と、自治体PRメディア戦略研究のために、武雄市役所を訪ねました。樋渡武雄市長は、「市長」と入力し携帯で検索すると、約10万件の中で「武雄市長物語」というブログがトップに来るほど名物市長です。み

ずからフジテレビへ飛び込み営業を行い、「がばいばあちゃん」のテレビドラマのロケ地を誘致したことや、「いのしし課」や「がばいばあちゃん課」など、ユニークな名称の部署を設置したことでも、メディアを巧みに利用して知名度を上げました。

先日の2月20日には、「がばいばあちゃん2」が放映され、TNCの視聴率は19.7%と、同時間帯他番組を大きく引き離す高視聴率でした。ちなみに、武雄市独自の電話による市内視聴率調査では、83.2%と驚異的な結果です。放送日翌日の日曜日には、ロケ地周辺の道路が渋滞するほどにぎわったそうです。

ロケ地誘致による市民の地域に対する誇りや一体感の醸成という社会的効果、知名度向上という宣伝効果、ロケ実施による直接的経済効果、さらには観光客増大による消費需要の増大効果ははかり知れません。

先日、アジアからの観光客でにぎわうニセコスキー場の報道がありました。金融危機以前に大量に入り込んでいたオーストラリア資本にかわって、中国の個人海外旅行解禁に伴い、中国資本が席卷しているという内容でした。中国では、個人海外旅行を題材にした映画が流行し、興行成績1位のニセコがロケ地となった映画で登場した普通の居酒屋が、大繁盛している場面も放映されていました。対馬でも、ドラマや映画の題材となる資源は豊富にあると思います。ロケ地誘致に取り組む価値はあると思いますが、市長のお考えをお伺いいたします。

以上、よろしく申し上げます。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 1点目の海洋資源の保護について、新たな提案等をいただいたところでございます。今現在、海洋資源保護につきましても、いそ焼け対策という視点から、市も県も挙げて一生懸命取り組んでおるところであります。ありとあらゆる制度を活用しながら、集落のほうも一生懸命頑張らせていただいているというふうに思っております。

最近のデータからいきますと、平成9年に漁獲高が257億であったものが10年後の平成19年に147億ということで、約40%の減少というふうにもなっております。このような状況では対馬が生き残っていけないということで、先ほど言いましたように、ありとあらゆる機関、市民の方も危機感を持って取り組んでいただいております。

海洋保護区のことにつきましては、新知事の中村知事のほうと議員の皆様方が政策協定を結んであるというふうなお話を今いただきましたが、大変心強いなというふうに思っております。脇本議員が御存じのように、東大の清野先生とともに、今、海洋保護区の取り組みはしております。1月末に環境省の副大臣田島一成さんのほうを訪ねて行って、この話、対馬市として手を挙げたいし、この秋にありますCOP10までに政府としても1つの方向を出していただけないかということでした。

田島副大臣のお話によりますと、海洋保護区の手を挙げてくださる自治体が今のところない中で、対馬市から逆に挙げていただいたのは助かりますという言葉をしていただいたところでもあります。その後、関係機関等も回って、海洋保護区への取り組みをお話をさせていただいたところでもあります。

漁獲高の先ほど言いました40%減少しているという問題、これについてはやはり私どもの対馬の漁民の方たちが上げられる部分がどんどん減っていて、それ以外に収奪的漁法をされている方の水揚げ高は当然入っていない数字であります。この10年の間に、実は単価も若干落ちていくような状況です。

どうかしてそのあたりの収奪的な漁法をやっている方たちを、私どもは私どもの資源を守るためにしっかり取り組んでいきたいという思いでおりますし、ただ排除するだけではなくて、先ほど脇本議員がおっしゃられた杉本先生ですか、杉本先生が提唱されているような、そのような鉄炭だんごでしたか、そういうものも取り組む。今現在は、私どもはEM菌のことから物事に取り組んでいこうということでやっております。

先ほどの鉄炭だんごにつきましては、ある意味、漁業集落の再生交付金等で地域のほうにこういうふうな方法がある、もしくは先ほど言われたように、その先生をお呼びして、皆さんに1回告知していくということも大切かというふうに思います。

そのあたりの取り組みについては、学校現場のほうでも子供たちが今環境ということについて一生懸命考えて、さまざまな取り組みをしてくれています。そういう学校現場のほうに対しても、話を持っていくことも可能かなというふうに思います。

1つの方法としてやれるのだろうと思いますし、鉄炭だんごの話につきましては、今現在、対馬の峰の東部のほうで取り組んでおりますことがございます。同じこと、考え方としては一緒だと思いますけども、フルボ酸鉄を要するに海中に沈設し、そこから出ていく部分で海草をふやしていくという手法もっております。また、ありねよし1号を水際にどんどん沈設といいますか、埋めていっていると。そして、潮でどんどんありねよしの養分をいそ場に流し込むという方法で、唐舟志と女連と豆殿とでしたか、取り組みもやっております。

昨年の秋ぐらいから始めたものですから、それとの関連で、今これだけの効果が出ているということにはすぐ言い出しはできませんが、藻が戻ってきているところもあります。この経過もきちんとモニタリングしながらやっていきたいと思っておりますし、私どもの処理場から出てくるありねよしの分については、農林副大臣のほうからも高い評価を受けたところでもありますので、しっかりと取り組んでいきたいというふうな思いでおります。

さまざまな手法があろうかと思えます。いそ焼けの問題については、ある人に言わせると、簡単に言えば温暖化の影響だと言われる方もいらっしゃいますし、いや、違うと、食害の問題、そ

れが大きな問題だと言われる方もいらっしゃいます。諸説紛々ありまして、どれがどうだという答えはないみたいにあります。少なくとも私も、先ほど食物連鎖の頂点に立つ人間がどうしていくかというお話がありましたが、私もその頂点に立っている人間の人のほうから取り組みをEM菌を使ったことでやっていこうということで、EMだんご等も河川等に投入することによって、いその回復にもつながればというふうな思いを持って、施政方針でも言いましたように、島民みんなが取り組まないと、うまいこといかないという思いもありますし、当然、林業との兼ね合いも出てくるというふうな多岐にわたる部分から、いそ焼け、海洋資源の問題についてはしっかりと取り組んでいきたいというふうに思っております。

何かすみません、どこか漏れたら申しわけございません。

それと、観光振興に向けた取り組みの中のメディア戦略についてお話がございました。協本議員が既に調査をされているとおり、今現在、KBCラジオ等でこの2月、3月、しっかりとやっておりますし、私もだけではなくて市民の方もそこに参加していただきながら、一昨日は「とんちゃん部隊」の斎藤君が、私が後で見ましたら8分12秒出ていたようにあります。ラジオというので、8分も使って対馬のことととんちゃんのこと、さらにとんちゃんを食べさせるために、武末福岡事務所の所長もラジオの中に出演し、皆さんと対馬を売り込んでおりました。

そして、一昨日は、この8月13日にやはり大丸裏のエルガーラですか、パサージュ広場で行われるラジオフェアですか、何かそういうものに参加をするのだと、部隊は参加するというところで宣伝も行っておりました。いろんな方たちが、こちらが設定をしましたというメディア戦略の中に入ってきていただいて、自分らを、そして対馬を売り込んでもらうということがすごく大切だというふうに思っています。

もう一つの観光客の誘致のお話もございましたが、これについては何度も言いますが、対馬学への招待ということで、対馬のことを福岡市民、福岡市周辺の方々にしっかりわかっていただきたいと、わかった上でこちらに来ていただきたいという思いで組み立てておりますし、今も旅行社の方々とそこに受講されている方々をどのようにこちらに引っ張りこんで——言葉が適切ではないですね、どうして来ていただくかということに、今、策を練っているところであります。

新聞社もそうですし、ラジオもテレビもそうですが、向こうもニュースソースを欲しがっている部分も当然ありますし、こちらもそのあたりをお互いウイン・ウインの関係で物事がやっていけるようにおつき合いもしていきたいというふうにも思っていますし、そのあたりのやり方については、福岡事務所の職員が一生懸命私にやってくれているというふうに思っておるところであります。

ロケ地の話がありました。よく言うフィルムコミッションという考え方で、樋渡市長の話が出ましたが、恐らく彼はまだ若い40ぐらいの市長ですが、行動力といい、アイデアといい、頭脳

といい、正直言って九州でナンバーワンの男だろうと私は思っています。戦略も持っています。一応市長会では仲よく懇談はいつもしているのですが、正直言いまして、彼ほどの能力を私は持ち合わせていません。あそこまでの戦略家にはなっていません、私は。しかし、身近なところでいつも見る機会がありますから、樋渡君みたいな人間に自分自身も早いうちにならなくてはいけないという思いではおります。そのあたりはしっかり取り組んでいきます。

ロケ地の問題については、韓国のほうから昨年ですか、一昨年でしたか、ロケ地として使われるとか、いろんなことは取り組みの中で出てきてはおりますけれども、なかなか難しい部分があるのかなど。もっともっと、施政方針で言いましたように、都会とのある意味地域差の顕在化みたいな部分を表に出していくことによって、ロケ地の誘致等がもっとできるのかなというふうにも考えております。

それ以外は何かありましたか、よろしいですか、まずは。申しわけございません。

○議長（作元 義文君） 1番、脇本啓喜君。

○議員（1番 脇本 啓喜君） 丁寧な御答弁をありがとうございました。

まず、樋渡市長の話をちょっとされましたので、今度の施政方針の中でもありました坂本龍馬の話があったのですが、私は市長自身が坂本龍馬になる必要はないだろうというふうに思っています。市長の仕事としては、対馬各地に坂本龍馬を育ててあげていただく、それが市長の仕事だろうというふうに思っています。あえて言うなら、幕末に下級武士だった西郷隆盛や大久保利通、そして坂本龍馬、脱藩藩士を物心両面から支えていった薩摩の小松帯刀のような、そんな役人を地域マネージャーの中から出していただくような、そういう努力をしていただきたいと思います。

今、西泊あたりでも動き出していますので、それが波及していけばいいかなというふうに思っています。協力してやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

いそ焼け対策のことについては、詳しく答弁がありましたので、1点だけ、鉄を海にまくということは、御存じのように、地球温暖化の原因と言われている二酸化炭素の発生を抑制する効果も期待できます。鉄イオンを供給することで、海草類の光合成を活性化させて、二酸化炭素の消費を促進していきます。また、植物プランクトンが発生することは、貝類の増殖にもつながっていきます。貝殻は炭酸カルシウムの塊であり、二酸化炭素を貝殻の状態海中に固定できます。

日本の島で最も長い海岸線を持つ対馬で本格的に取り組めば、市長がいつもおっしゃっているカーボンオフセット、この島の構想にも資する効果が大きいと思います。二酸化炭素排出量の取引価格が下がってきてはいますが、田舎らしさを発揮するには重要な構想だと思います。こうした視点からも、いそ焼け対策を杉本方式等の検討をもう一度お願いしておきます。

次に、ドラマ誘致についてなのですが、観光ガイドの養成について、今後の計画をお聞

かせいただきたい。これはメディア戦略の1つにもなってくると思いますので、市長は就任2年以内に、観光ガイド組織を構築するという公約に掲げていらっしゃいました。対馬観光ガイドの会「やんこも」の大活躍や、この3月4日には北対馬観光ガイドの会「うみてらし」というものも設立されました。中地区でもガイド養成講座が好評で、市長の公約は立派に達成されつつあるのではないかなと思っています。今後とも、対馬PRに活躍いただけるガイド組織の充実発展に御協力いただきたいと思いますが、その点について回答をいただきたいと思います。

とりあえずここまで、お願いします。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 龍馬の話が出ましたが、龍馬は若くして死にますので、できれば地域マネージャーは龍馬になってもらわなくて、私一人でいいのかなと思っております。それよりも、職員は大久保利通、もしくは伊藤博文みたいに、しっかりと最後の国づくりに取り組んでもらえればよいというふうな考え方で、犠牲的精神で龍馬にと考えておりませんので、御理解のほどを、決してこれは私が書いた句ではありません。他人様が書いた句ですので、御理解のほどをお願いします。

それと、いそ焼けの問題でございますが、今、取り組んでいる部分、多岐にわたっております。そういう中で、新しい提案というふうな考えで受けとめておりますし、農林水産部の所管しております再生交付金の事業の中でも、恐らく集落等に提案をしていける事業だというふうにも考えます。そのあたりの取り組みは、積極的にやっていきたいと。

なぜならば、いそ焼け対策の100%これがいいんだという正解は今のところ見出していないと思っておりますので、ありとあらゆる可能性があるならば、しっかりとやってみるということが大切だというふうに思っております。

次のガイド養成の件につきましては、今何名という話に計数的なものは担当部長のほうからお答えさせますが、「やんこも」、それから上のほうの「うみてらし」ということで、徐々に観光ガイドが島内を動き始めているというふうにも思っていますし、また今月来ます埼玉の高校修学旅行がたしか4つぐらいのメニューがあったと思いますが、それに応じて観光ガイドが別々に動いていくと、対馬の観光ガイドが対応していくというふうな、それも大変うれしい話だなということで、私は報告を聞いておりました。

これから先、市民の皆さんがそういう形でしっかりと取り組んでいただくことによって、おもてなしというふうな部分も充実していくのだと思っています。その中で、対馬のよさを観光ガイドの人たちがまた発信してもらえるものというふうに思っております。今後も、しっかりとそのようなガイド養成等々には力を入れていきたいと考えます。

以上です。

○議長（作元 義文君） 観光物産推進本部長、本石健一郎君。

○観光物産推進本部長（本石健一郎君） 観光ガイドの組織についてということでございますので、お答えいたします。

現在、厳原地区におきましては、「やんこもの会」という組織がございまして、これに大体登録者が27名、それからこの21年よりふるさと雇用によりまして、中対馬地区と上対馬地区でガイドの養成講座を行っております。一応、中対馬地区におきましては14名、上対馬地区においては16名、これはいずれも対馬観光物産協会の事業としてとり行っております。

以上でございます。

○議長（作元 義文君） 1番、脇本啓喜君。

○議員（1番 脇本 啓喜君） 坂本龍馬のことについてもお答えいただきまして、ありがとうございました。私は、役所の方に坂本龍馬になってほしいとは言っていませんので、同じ短命だったのですが、小松帯刀のようになってほしいというふうに申しました。ただ、成人式で市長が言われたように、長く生きるのではなく、いかに人のために生きるかというのが大切だということですので、それも申し添えておきます。老婆心でした。

続きまして、観光ガイドの件ですけれども、あと2年間、たしか養成時期があると思います。その後、ある程度そこまで自立してできるような組織を目指して頑張っていらっしゃる、それぞれの方も頑張っていらっしゃると思いますが、その後の支援のほうもよろしくお願ひします。

それから、少し時間があるようですので、ドラマのことについて、題材についてこういうのはどうだろうかというのを考えたものがありますので、幾らか紹介させていただきます。

豊臣秀吉の朝鮮出兵の折に、義の立たない戦に嫌気が差し、兵を率いて朝鮮に降伏した沙也可という人物が、朝鮮の古い漢文「慕夏堂記」に登場します。沙也可は武功を重ねて、王寵をこうむって高官となり、土地を賜って、その族党、家臣が一村をなし、無事泰平の世を楽しんでいると記されています。この沙也可は、司馬遼太郎氏の「街道をゆく2 韓のくに紀行」で紹介されて有名になりました。

司馬さんは、沙也可の上陸日が小西行長軍のそれであること、またみずからを「島夷之人」、島の人と称し、当時、日本では儒教的考え方を持っていたのは対馬だけですけれども、儒教的教養も見られることから、沙也可を小西軍に属し、かつ朝鮮とも関係が深かった対馬の宗義智の支配下の武士だったのではないかと推理しています。これは全然歴史的事実とは違うかもしれませんが、あの高名な司馬先生がそういうふうに言っているのですから、これを活用しない手はないかなと。NHKのテレビシリーズ「街道をゆく」でも紹介されています。

自分が売りたいものを売るのではなくて、お客が買いたいものを売るのが商いの鉄則です。韓国人が、今でも断トツで最も嫌いな日本人として上げているのが豊臣秀吉です。それに反旗を翻

した人物が対馬の人だという説に沿った題材であれば、多くの韓国人から大きな興味を引くことができるのではないかと思います。

それから、年末、NHKのドラマで「坂の上の雲」が放送されています。来年になりますね、ことしではなくて来年末、多分、対馬沖海戦も取り上げられるでしょう。ロシア兵を集落挙げて手厚く介抱した西泊住民の義行や、陶山訥庵先生のイノシシ退治も、ドラマの題材にふさわしいと思われます。市民の誇りや一体感の醸成など、「がばいばあちゃん」にもまさるとも劣らない効果を生み出せるかもしれません。

先日、3月7日、地域の魅力などを紹介する「NCCふるさとCM大賞」のグランプリに、加志々中学校の「僕らがつくったかるたの旅IN対馬」がグランプリを受賞しているようです。PRに大きく貢献してくれるのではないかと期待しています。

そのほかにも、今、観光物産推進本部が力を入れてつくっていただいた「孝行めん」、このPRの際に、原料のサツマイモを対馬に持ち帰った原田三郎左衛門の紙芝居とか、そういうものをつくったり、あと市民劇団による上演をまずやって、マスコミの関心を引いて、マスメディアに載せるというステップも考えられるのではないかなと思います。

そういう点について、何か御意見があればお聞かせください。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 私と若干、沙也可の問題については認識が違っていて、沙也可は私是对馬ではなくて、私はたしか和歌山の出身だというふうに自分が読んだ本では記憶しておりますが、何はともあれ対馬を通して朝鮮半島のほうに入り、そこに住みついたというふうなことだろうと思います。

幾つかのアイデアをいただきました。その中で、私自身はいつの日か、あれは二十四、五年前ですか、白石一郎さんが直木賞をとりました「海狼伝」なんかは、まさしく対馬を舞台にした、そして海のドラマですし、大変いい題材だというふうな思いは常に持っております。最近、白石一郎さんの息子さんも直木賞をとられましたし、そのあたりで対馬がどうかして脚光を浴びないかなというふうな思いも持っております。

今、「坂の上の雲」は確かにことしの11月、12月ではなくて、来年の11月、12月の際に、当然、秋山真之が主人公となって動く場面だろうと思いますし、対馬ウオーとしての世界的に認識されております日本海海戦をしっかり私ども売り込んでいくチャンスというふうには認識を持っております。

また、市民劇団のお話がありました。先日、3月7日でしたか、日曜日に市民劇団が初の公演をしました。自分らが書きおろした「絆」という、20分ぐらいの演目でした。黒田議員と長議員がずっと見ていただいておりますが、しっかり取り組んでいただいているなと思

いますし、今現在、頼んでおりますジェームス三木さんですか、のほうで朝鮮通信使に絡んだ脚本等も今書いていただいているというふうにも聞いております。さらには、夏ぐらいに向けて別の脚本も書き上げていただくというふうな、対馬を題材にしたことで脚本を書いていただくというお話も進んでいるというふうな報告も聞いておるところであります。

最初の答弁ではございませんけども、いろんなメディア等のつながりを持ちながら、対馬の歴史とか文化とかいうものもきちんと発信していけるように、つながりをきちんとつくっていききたいと思います。

以上です。

○議長（作元 義文君） 1番、脇本啓喜君。

○議員（1番 脇本 啓喜君） ありがとうございます。私の愛読書の一つに、孫子の兵法というのがあるんですけど、その中に一つ、特に自分がまだ若いものですから、と思っていますから、そういう人たちを生かしていただきたいということで一つだけ。「将能にして君御せざる者は勝つ」という言葉があります。若い人——将ですね——に自由に発想してもらって、活躍してもらって、肝心なところだけ上の人が指示をする、そういうことを言っているんだと思います。

先ほど申しましたように、坂本龍馬みたいに短命では困りますけども、対馬各地に坂本龍馬を育て上げていく、そういうことを理事者側で一生懸命押していただきたいということをお願いして、本日の質問は終わらせていただきます。

○議長（作元 義文君） これで、脇本啓喜君の質問は終わりました。

.....

○議長（作元 義文君） 暫時休憩します。再開を3時10分から。

午後3時02分休憩

.....

午後3時10分再開

○議長（作元 義文君） 再開します。

次に、6番、松本曆幸君。

○議員（6番 松本 曆幸君） よろしく願いをいたします。新生クラブの松本曆幸です。初めて一般質問をいたします。どうぞよろしく願いをいたします。

財部市長におかれましては、平成20年3月に就任以来、大変厳しい財政事情の中に、健全財政に向けて努力なされておられることに感謝を申し上げる次第であります。市政を預かりちよほど折り返し点となります。今後も厳しい行政運営が続くかと思われませんが、市長のスローガンでもあります「対馬よみがえり宣言」「対馬改進黨」に向けて、さらに頑張ってくださいますようよろしく願いをいたします。